

## 概 説

福井県は本州のほぼ中央に位置し、日本海に面している。嶺北に北陸最大の九頭竜川水系（流路：116.3km）が、ついで嶺南に南川（38.5km）と北川（28.0km）があり、大小 40 本余りの河川がすべて日本海へ流入する。さらに三方五湖と北潟湖、池ノ河内湿原、湧水池（大野市）などがあり、陸水環境はかなり変化に富む。しかし、本県においても近年の自然開発や河川工事、水質汚濁等により陸水環境が悪化し、生息し難くなった生物が多くみられ、早急に環境の保全と回復が求められている。

今回の改訂により選定された種数は 39 種あり、第 1 版に比べ 6 種増加した。一生を淡水で生活する「純淡水魚」に比べて、海と川を行き来する「通し回遊魚」でランクアップした種が多い。これは、県内河川において、堰や頭首工などの河川横断工作物によって、海と川のつながり、または河川内の連続性を失った河川が増加したと推察される。生息状況など評価できる生態的な情報が明らかになりランクダウンした魚種（2 種）がいる反面、評価できるだけの情報が不足している要注目種（4 種）が新たに選定された。つまり、県内の生息環境の悪化などから魚類全体として個体数が減少している種が多くなったため、レッドリストに選定される種の数が増えたと考えられる。

### ● 県域絶滅危惧Ⅰ類

ニホンウナギおよびイトヨ日本海型（降海型）は、生息個体数の減少が著しく、それぞれ県域準絶滅危惧および県域絶滅危惧Ⅱ類からランクアップした。これらの原因として、堰や落差工などの河川工作物が河川遡上を阻害し、生息域を縮小させていることが考えられる。

### ● 県域絶滅危惧Ⅱ類

クルマサヨリおよびホトケドジョウの詳細な生息状況が明らかになり、県域絶滅危惧Ⅰ類からランクダウンした。しかし、両種とも汽水域および水田周辺水域の脆弱な環境に生息しており、現在の生息個体量を維持するには水辺環境の保全が必須である。

カジカ中卵型およびシロウオは、生息個体数の減少が著しく、それぞれ要注目および県域準絶滅危惧からランクアップした。カジカ中卵型は遊泳・遡上能力が弱く、堰や落差工などの河川工作物が河川遡上を阻害し、生息域を縮小させていることが原因として考えられる。シロウオは汽水域上流の礫の下で産卵することから、土砂の流入等による産卵環境の悪化が減少の一要因として考えられる。また、本種は一生のほとんどを沿岸部や内湾で過ごすことから、今後、河川だけでなく沿岸部の生息環境の保全も必要である。

### ● 県域準絶滅危惧

2 種がランクアップし、1 種がランク外となったため、3 種減少した。現リストの 4 種の資源量に大きな変化はないと考えられる。

### ● 要注目

ヤリタナゴは、県内の分布は広いが、国のリストに選定されており、今後の動向に注目する必要があるため ランクインとなった。ドジョウは、交雑が懸念されるカラドジョウが県内に侵入していることが確認されており、今後の動向に注目する必要があるためランクインとなった。スジシマドジョウは、生息個体数が回復したわけではなく、評価できる生態的情報が極度に少ないことから、県域絶滅危惧Ⅱ類からランクダウンとなった。カワアナゴ・シマウキゴリ・クボハゼは、近年新たに生息が確認されたり、これまでの評価できる生態的情報が乏しいことから、今後の動向に注目を要するためランクインとなった。

### ● 地域個体群

タモロコ三方湖産は、地方型の特徴を有していることが明らかになり、近年の生息個体数も減少していることから、地域個体群として保全していく必要があるため選定された。

### ● ランク外

県内に分布しているトウヨシノボリは、放流などによって他地域から人為的に持ち込まれた移入種である可能性が高いためランク外となった。

上記の淡水魚が減少する原因として、河川ではダム、砂防、護岸、付近の道路敷設等の諸工事、森林とくに河畔林の伐採、水質汚濁等があげられる。湖では、護岸工事や水質汚濁により、湧水池では水涸れが起こり、種々の淡水魚類が減少の一途をたどっている。

淡水魚等の陸水生物がすめる水環境を保全するには、河川工事の際に、河川を蛇行させ瀬や淵を創出するなどして、そこにすむ様々な生物の生息環境の復元に配慮すべきである。2012年に福井県は、砂防指定溪流河川では、落差工に魚道を設置すること、河畔林の保全、3面張り護岸の原則禁止などを盛り込んだ生態系に配慮した砂防指針に改訂した。また、ラムサール条約の指定を受け稀少な淡水魚が多く生息する三方五湖や、北潟湖では、住民を含めた自然再生の活動が展開されている。しかし、河川中下流域では特段の取組みは実施されておらず、河川中下流域においても生態系に配慮した河川整備計画の策定や、各河川の流域全体の河川協議会設立などの取組みが必要である。

(田原 大輔)